

5 広告 Planned and Produced by YOMIURI BRAND STUDIO



世界医師会会長/日本医師会会長

よこ くら よし たけ
横倉 義武 氏



天台宗第257世 座主

もり かわ ひろあき
森川 宏映 氏

尊厳ある終末期を 迎えるために

医療と宗教のかかわり

相手を敬って思いやる心こそ大事

超高齢社会を迎え、人生の最終段階(終末期)の医療やケアについて関心が高まる中で、家族や医療・介護関係者がどのように寄り添っていかかが課題となり、人々の心を支えてきた宗教の役割が注目されています。そこで「尊厳ある終末期を迎えるために」をテーマに、日本医師会会長の横倉義武さんと第257世天台座主の森川宏映さんに比較山延壽寺(大津市)で話し合ってもらいました。

終末期の医療やケア 自身が望む形で

横倉 日本では高齢者が進んでおり、2025年には年間死亡者数が100万人を超え、多死社会を迎えることが推計されています。

そうした中で、日本医師会でも終末期医療の在り方について、死生観も踏まえながら議論する必要があります。院内の生命倫理懇談会を核としてもらっていたのですが、昨年11月の審判がまとまりました。

森川 終末期医療の在り方は人々の関心も高く、生死の現場に立ち会った多くの宗教者にとって、も関わりのある世界です。医学は患者さんの延命を何となく図ろうと努力してきました。ところが終末期においては延命が重要であると考えられています。

患者に寄り添って 医師も宗教者も支えたい

森川 実私の弟も医師も医師なのですが、日々の生活に追いついていないか、かかりつけ医がおられます。その方と診ていただいているので、私は安心してわが道を進むことができているというわけで、私もかかりつけ医の役割は大変重要であると考えています。

誰も避けて通れない問題 残された時間を心豊かに

※1 アドバンス・ケア・プランニング(ACP)…将来の医療及びケアについて、患者さんを主体に、その家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセス。この結果を残しておくことで終末期にも本人の意思を尊重することができる。

横倉 「かかりつけ医が日常の中で、患者さんたちの苦しみを悲しみに寄り添っているように、宗教者も医療やケアの現場でお手伝いできることがある。」

横倉 とこの天台宗の基幹運動である「開を照らす運動」も終末期医療における患者のケアという点で、実に多くの人々を

代に生かすために生まれました。一瞬とは、今あなたがいるの場所です。この運動は、あなたがあなたの置かれている場所や立場で、ベストを尽くす助け合いの場が



東日本大震災をきっかけに、家族を突然失った遺族が苦しむ姿を見て、文

えとなり、大きな役割を果たしたと聞いています。また、緩和ケアにおいても、今後人々の悲しみに寄り添い、生きる力を育む宗教者の役割は重要性を増していくものと考えています。

横倉 死についてはあまり考えたくないという人は多いと思いますが、天台宗には「草木国土悉皆成仏」と言われて、草木でさえ成仏できるわけですから人が成仏できないわけがない、という教えがあります。今後もっと人々と関わり、繰り返し聞くことで、安心を届けたいと思います。

横倉 死についてはあまり考えたくないという人は多いと思いますが、誰か避けては通れない問題です。皆さんにはぜひ、健康な時から、「かかりつけ医などと一緒に自分の最期を考えた結果を書き記しておく」ということをお願いします。本日はありがとうございました。

かかりつけ医などと自身の最期を考えてほしい